

卒業生からのメッセージ 2025

◇大西 蒼真 高知工科大学 情報学群

(普通科 邑久中出身)

皆さんに伝えたいことは、「学校という場を最大限に使い倒してほしい」ということです。私は三年間、部活動・生徒会・セトリのすべてに全力で取り組みました。

ソフトテニス部では初心者から団体戦県ベスト16に入り、生徒会副会長としては校則改正に尽力しました。またセトリでは校外イベントで人前で話す経験を積みました。これらの活動で得た「行動力」や「対話力」は、志望理由書の深みとなり、面接での揺るぎない自信に繋がりました。一方で、学習面での準備が後手に回ったという反省もあります。

実は二年生の冬、第一志望校を諦め、別の学校を探し直すという苦しい経験をしました。「もっと早く実力を直視し、計画的に準備していれば」と当時は挫折感も味わいました。その時、私を救ってくれたのは先生方です。正直な思いを打ち明け、何度も相談にのってもらうことで、納得のいく新たな目標を見つけられました。

皆さんには同じ思いをしてほしくありません。だからこそ、早めに自分と向き合って進路を選び抜き、決めたらすぐに泥臭く勉強を始めてください。「明日から」ではなく今、学校の補習や練習を使い倒す勢いで取り組むことが大切です。日々の授業は全ての土台です。そこで培う集中力と、活動で得た行動力を武器に、自分の道を突き進んでください。一人で抱え込まず、先生や仲間を頼って最高の進路を掴み取ることを応援しています。

◇川邊 真葉音 島根大学 総合理工学部 総合理工学科

(普通科 伊里中出身)

私が進路実現のために取り組んだのは、数検2級の取得と物理の勉強です。志望校を2年の冬に決め、美術から理系に行くには、数学ができると証明できるものがあること、物理に強い関心があり、知識を持ち併せていることを示す必要があったからです。数検は、7月に受けた2度目の試験で合格することができました。教科書の章末問題や発展問題を繰り返し解いたり、動画で過去問を解いたりして、分からないところは先生に聞いて対策しました。物理の勉強は、動画を見て知識をつけたあとに、問題集を繰り返し解き、わからないところは先生に積極的に聞きに行っていました。勉強面においては、先生に頼って分からないところをなくすと知識が確実なものになり、とてもよかったです。また、物理チャレンジに参加し、音速の測定実験をしたことで、自らの学びを深めると同時に面接での材料としてとても役立ちました。必要な書類には全て物理チャレンジについてのことを書き、面接でもこの経験をアピールしました。3年の9月から対策を始め、志望理由書などの3つの書類を一ヶ月ほどかけて完成させました。面接対策では、自分の中で将来何をしたいのか、そのために大学で何を学びたいのか、それを学ぶためになぜその大学に志望したか、合格するために高校で何をしたかという筋書きをしっかりと立てました。この内容を決めることに大部分の時間を費やし、実際の面接練習は、数回程度行いました。推薦入試では、主体的に行った特別な取り組みをアピールすることが必要です。3年生になってから何かをしようとしても遅いです。早めに志望校を決めて、行動を起こしてください。

◇河原 至道 岡山県立大学 デザイン学部 ビジュアルデザイン学科

(普通科 牛窓中出身)

進路実現のために一番大切だと感じたのは、日々の積み重ねを大事にすることです。私は、美術系の大学に進学したいと決めてから、美術の授業や放課後の時間を使ってデッサンをひたすら練習しました。入試で何が出ても描くことができるようにいろんなものをひたすら描くようにしました。面倒くさいと思う日があっても毎日少しでも続けることで実力は確実に伸び、過去の絵と比べると見てわかるほどの成長がありました。

他にもいろいろな活動に参加して実績を増やすことも進路実現につながります。私は部活動で取り組んだ校外行事に

積極的に参加することで、自分の強みや興味を見つけることができ、面接や志望理由書でも自信を持って話せる材料になりました。話の材料が増えれば、面接での回答を考えるのも楽になるし、本番での急な質問にも答えることができます。さらに、活動の中で色々な人と積極的にコミュニケーションを取ることで面白い話を聞くことができ、コミュニケーション能力が上がり、面接でスムーズに話すことができ、面接官にも良い印象を与えられるでしょう。

進路実現に向けた行動は早ければ早いほど得て、どれも自分のためになります。自分がやりたいと思ってやったことは無駄になることはないです。

後輩の皆さんたちは後に生まれた分先輩が残してくれた重要な意見や資料がたくさんあるので、ぜひ活用してください。

◇久安 海吏 富山大学 経済学部 経済経営学科

(生活ビジネス科 西大寺中出身)

私が進路実現に向けて取り組んだことは、大きく分けて二つあります。一つ目は、日々の学習と資格試験への誠実な取り組みです。私は高校三年生まで明確な進路を決めていませんでしたが、一年次から授業を大切に、定期試験や検定試験に全力で取り組んできました。その結果、高い評定や資格を維持することができ、三年次で志望校が決まった際には、ほぼ全ての大学の出願資格を満たしていたため、進路選択が遅れていても自信を持って出願することができました。今やりたいことが決まっていなくて、将来の選択肢を最大限に広げるために、目の前の学びに妥協せず取り組むことを強くおすすめします。

二つ目は志望校に特化した個別試験対策です。三年の夏からは、個別試験で課される総合問題と面接の対策に注力しました。総合問題では小論文と英語の長文読解が出題されるため、過去問を解き、進路指導の先生に何度も添削していただくことで、論理的な思考力と記述力を磨きました。同時に、英単語の暗記と演習を毎日欠かさず継続し、基礎力の底上げを図りました。また、先生の勧めで挑戦した IT パスポートの取得は、面接において自ら学ぶ姿勢を示す大きなアピール材料となり、合格を強力に後押ししてくれました。

進路実現において最も重要なのは、地道なことを継続することです。決して簡単なことではありませんが、進路実現に向けて頑張ってください。

◇杉田 優希 関西福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科

(生活ビジネス科 邑久中出身)

私は高校1年生の時に、社会福祉士という仕事に興味を持ち、大学進学を目指すようになりました。大学進学を実現するためには日頃からの積み重ねが大切だと考え、1年生の頃から定期考査に向けて早めに勉強を始めることを心がけました。また、毎日早寝早起きを意識し、体調管理にも気を配りました。その結果、定期考査では上位をキープし、3年間一日も休まず登校することができました。

3年生になると受験に向けて本格的に準備を始めました。夏休み前から志望理由書の作成に取り組み、担任の先生に添削していただきながら完成させました。夏休み中は面接対策を始め、先輩方の受験レポートを参考にし、質問されそうなことや自分の考えを紙にまとめました。2学期からは先生方に面接練習をしていただき、私は6人の先生方に指導していただいたことで、本番では落ち着いて話すことができました。またオープンキャンパスに複数回参加することも大切だと感じました。何度も参加したことで大学の雰囲気に慣れ、受験本番は落ち着いて面接を受けることができたと感じています。

進路実現に向けて、自分一人で悩まず、周りの人に頼ることも大切です。私自身も邑久高校の先生方から多くのサポートを受け、面接練習や特待生試験の勉強を進めることができました。これから自分の進路について考える機会が増えていくと思いますが、ぜひ周囲の力を借りながら、自分の目標に向かって一歩ずつ進んでいってください。

◇藤村 紗英 岡山済生会看護専門学校

(生活ビジネス科 長船中出身)

私は高校2年生の冬に進路について考え始め、看護の専門学校への進学を決めました。進路を考え始めた頃は、自分が何に向いているのか分からず、不安を感じることも多くありました。しかし、将来人の役に立てる仕事に就きたいと考えたことが、看護の道を選ぶきっかけになりました。進路が決まったことで、目標を持って学校生活を送ることができるようになり、勉強への意識も変わりました。高校3年生の夏休み頃からは、入試科目である数学の勉強を本格的に始めました。最初は基礎問題でもつまずくことがあり、苦手意識を感じることもありましたが、夏休み後に週2回行われた数学補習や授業を通して、基礎から丁寧に学び直しました。分からない問題をそのままにせず、何度も繰り返し取り組むことで、少しずつ理解を深めることができました。

また、進学先をより具体的に知るために、専門学校の「高校生一日入学」に参加しました。実際の授業内容や学校の雰囲気を経験したことで、進学後の生活をイメージしやすくなり、進路に対する不安も減りました。

進路を決めることや受験勉強は簡単なことではありませんが、早めに準備を始め、小さな努力を積み重ねていくことが大切だと思います。今の高校生活での一つ一つの取り組みを大切に、自分に合った進路を見つけてほしいです！

◇田原 雄太 岡山村田製作所（生活ビジネス科 日生中出身）

進路実現に向けて第一歩を踏み出した今、後輩の皆さんにアドバイスを送ります。私が就職活動を経験して強く感じたのは、早めの準備と自分自身の強みを具体化することの大切さです。まず、検定取得には積極的に挑戦してください。検定は、自分のスキルを客観的に証明するだけでなく、取得に向けて計画的に学習したという努力の過程を伝えるための大きな材料になります。結果はもちろん大切ですが、その過程で培った忍耐力や集中力は、面接の際にも自分を支える大きな自信となりました。次に、邑久高校独自の取り組みであるセトリーを大切にしてください。他校にはないこの活動は、皆さんが他の誰でもない自分を表現するための強力な武器になります。地域と関わり、課題に取り組む中で得た独自の視点や経験は、社会に出る際や進学の際において、他の人と差別化し、より強い印象を残すために非常に役立ちます。これを単なる学校行事と思わず、自分の将来への成長の機会として全力で取り組んでみてください。進路を考える時期は、時に不安やプレッシャーを感じることもあるでしょう。しかし、学校での日々の積み重ねや、自分から一歩踏み出して得た経験は、必ず本番で自分を助けてくれます。後悔しないよう、今できることに全力で向き合ってください。皆さんが自分らしい進路を見つけ、納得のいく結果を掴み取れるよう、心から応援しています。

◇虻江 雛妃 備前日生信用金庫（生活ビジネス科 牛窓中出身）

私は将来の進路が3年生まで決まっていなかったのですが、進路実現に向けて自分にできることとして、検定取得と就職選考の準備に力を入れて頑張りました。

検定取得では、せっかく検定を受けるなら中途半端に終わらせるのではなく、できるだけ多くそして全て取得したいと考え、全検定取得を目標に努力してきました。検定の一週間前から始まる補習には積極的に参加し、分からないところは先生や友達に教えてもらいました。また、自分が理解できた部分については友達に教えることで知識を深めることができました。さらに家に帰ってからも友達と一緒に問題を解いたり励まし合ったりしながら検定勉強に取り組みました。

就職選考では、作文と面接があり、その対策に力を入れて取り組みました。作文では、どんなテーマにも対応できるよう、過去の受験者の報告書を参考にして出題の傾向をつかみ、内容に合わせて自分の考えをまとめる練習を重ねました。文章の構成や具体例の出し方も意識し、どのテーマでも落ち着いて書けるよう準備しました。また面接では、深掘りされた質問にも答えられるよう、「なぜそう思うのか」を繰り返し自分に問い、考えを整理することを心掛けました。その結果、本番では自信を持って受け答えができました。

すぐに進路が決まらなくても、今まで頑張ってきたことは必ず自分の力になると思います。皆さんも自分を信じて一歩ずつ前に進んでください。応援しています。